

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和元年度病虫害発生予察技術情報第1号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第1号（海外飛来性害虫の飛来状況）を発表したので送付します。

技術情報第1号

- 1 作物名 普通期水稻
- 2 病虫害名 海外飛来性害虫（セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ）

3 発生状況

(1) 飛来状況

- 1) 県内予察灯(5か所)では、セジロウンカが6月30日～7月2日に捕獲された。ネットトラップ(1か所)では、セジロウンカ・トビイロウンカともに捕獲されていない(表1:7月15日現在)。コブノメイガは予察灯およびネットトラップで捕獲されていない。
- 2) 日本植物防疫協会「JPP-NET」ウンカ類飛来予測に基づいて、筑紫野市ほ場で見取り調査を実施した結果、トビイロウンカ成虫を7月3日に25株当たり1.0頭確認した。
- 3) セジロ・トビイロウンカの主要飛来日を、6月6日および6月30日と推定した(図1)。
(「JPP-NET」の飛来解析・県内の調査結果・近隣県の飛来状況参考)
また、近隣の飛来状況及びほ場巡回調査の結果から、コブノメイガの主要飛来日を、6月30日と推定した(図2)。

(2) 7月2半旬のほ場調査結果

1) セジロウンカ

10株当たりの払落し成幼虫数は平均0.5頭(平年7.0頭、前年0.2頭)、発生ほ場率は21.7%(平年46.5%、前年11.9%)で、払落し虫数・ほ場率ともに平年より少なく、前年よりやや多くなった。

2) トビイロウンカ

10株当たりの払落し成幼虫数は平均0.0頭(平年0.0頭、前年0頭)、発生ほ場率は2.2%(平年2.1%、前年0%)で、払落し数・ほ場率ともに平年並で、前年よりやや多くなった。

3) コブノメイガ

発生ほ場率は1.4%（平年1.2%、前年0%）、発生ほ場では幼虫が確認されたが、30㎡当たりの払出し成虫数は平均0頭（平年0頭、前年0頭）であった。

表1 ネットトラップ・予察灯におけるウンカ類の飛来状況（令和元年7月11日現在）

月日	セジロウンカ							トビイロウンカ							コブノメイガ							
	ネット	予察灯						ネット	予察灯						ネット	予察灯						
	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計	筑紫野市	筑紫野市	糸島市	筑後市	行橋市	遠賀町	予察灯計	
6/21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6/30	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/1	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/2	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7/11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 防除上注意すべき事項

- （1）今後の飛来状況やほ場での発生状況については、病害虫防除所が発表する病害虫発生予察情報に注意する。
- （2）トビイロウンカは、田植時期や地域およびほ場毎の発生差が大きい。また、育苗箱施薬剤が施用されたほ場でも、田植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなるので、発生予想パターン図を参考に、ほ場における発生状況を把握し、発生が多い場合は幼虫期に防除を行う。

＜要防除水準：中老齢幼虫の合計数＞

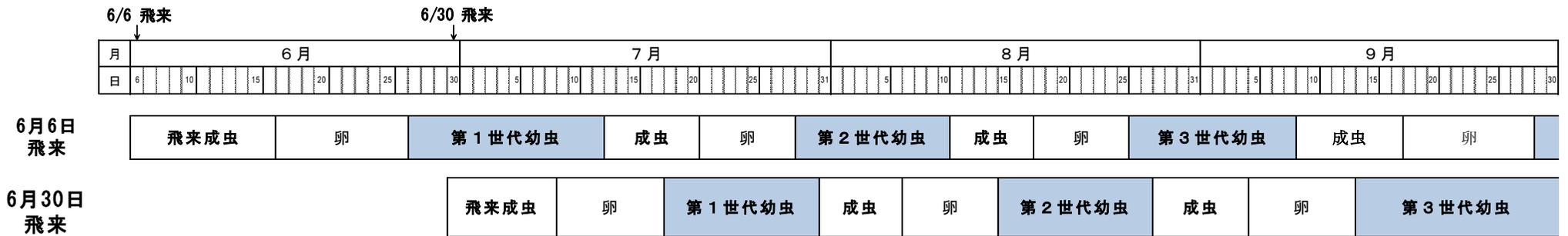
飛来後第1世代：20頭/100株（7月中～下旬頃）

飛来後第2世代：100頭/100株（8月中～下旬頃）

- （3）無人ヘリコプターによる防除を気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合がありますので、気温が上昇する前の早朝に実施する。
- （4）防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。
- （5）病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

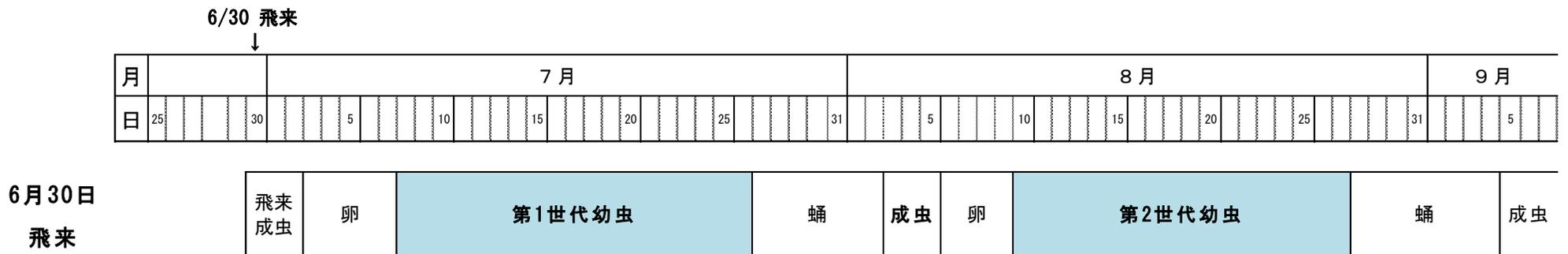




(注) (1)発育零点12.0℃、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度 (成虫期間100.0℃・卵期間109.4℃・幼虫期間189.4℃)

(2)気温はアメダス太宰府を使用 (7月18日まで実測値、以降は平年値)。

図1 飛来に基づくトビロウカの発生予想パターン図 (令和元年7月19日作成)



(注) (1) 防除適期は発蛾最盛期から1週間後である。

(2) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。
 発育零点 (卵13.0℃、幼虫12.5℃、蛹14.2℃)、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、
 有効積算温度 (卵50.0℃、幼虫250.0℃、蛹90.0℃)

(3) 気温はアメダス大宰府を使用した。(7月18日までは実測値、以降は平年値)

図2 飛来に基づくコブノメイガの発生予想パターン図 (令和元年7月19日作成)